

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	国 語
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	・学習には意欲的で文字を習うことが特に好きだが、鉛筆の持ち方が身についていない児童や筆圧の弱い児童もいる。 ・伝えたいことを文章に表現したり話したりすることは好んでする児童が全体の 90%であるが、まだ慣れていない児童も 10%程度いる。 ・文章の順序や内容を一緒に追っていくと理解できるが、様子や気持ちを想像するには個別の支援が必要である。	・書写の学習を充実させ、正しい鉛筆の持ち方について繰り返し指導する。 ・作文の練習をしたり、わかりやすい題材で話型を示し発表する練習をしたりする。 ・文章の読み取りの際、言葉を頼りにしながら内容を読み取るスキルを繰り返したり、音読をする中で言葉の楽しさを味わわせたりする。 ・読み聞かせの時間を週に 1 回程度行い、読書を通して豊かに想像する力を育てる。	・朝学習や家庭学習で文字を丁寧に行ったり文章を書いたりする練習を繰り返し行う。 ・朝の会や帰りの会、学級活動の中で発表する機会を多くもたせる。日常生活でも短いお話をする場を設けていく。 ・朝読書によって、本に親しませ、言語の知識と感覚を豊かにしていく。
第 2 学年	・意欲を持って学習に取り組んでいる児童が 8 5 %程度いる。特に音読や読書、発表会の学習には意欲的である。 ・文章を書くことについては、したことを順序よく書けなかったり、自分の考えを整理して書けなかったりする児童が各クラス 2 割程度いる。 ・大事なことを落とさずに聞く力が足りない児童が各クラス 2 割程度いる。 ・漢字書き取りについて個人差が大きく、正しく覚えるのに時間のかかる児童も各クラス 2 割程度いる。	・音読発表会を行う機会を多くし、友達の工夫している点を取り入れる指導をする。 ・観察文、自分の考えを文章化する学習を重視し、適切な題材や、書き方を具体的に指導していく。 ・相手意識が育つように、対話形式の『話す・聞く』活動を取り入れる。また、基本的な話型を具体的に表すことや、発表メモや聞き取りメモを書く練習をたくさんさせる。 ・授業の中では、新出漢字の書き順を必ず確認し、学習した字については、毎日家庭学習させ、漢字練習を定着させる。	・教科書以外の詩なども取り入れ、いろいろなパターンの音読練習をさせる。 ・一週間に一度は、日記を書かせ、したことや感じたことを書くことができるようにさせる。 ・学習したことの発表会を適時に行い、話したり聞いたりすることに抵抗がないようにさせる。 ・朝の時間を利用してスピーチをする練習を続けさせる。 ・漢字の書き取り能力を向上させるため、適時漢字テストを実施する。
第 3 学年	・教師の発問、指示に対して意欲的に取り組もうとする児童が多いが、話を最後までしっかりと聞けない児童や、発言に対し消極的な児童も 1 5 %ほどいる。 ・まず、話をしっかりと聞き、次に、自分の考えや思いを言葉にしてはっきりと伝える力を育	・聞く力、話す力を身につけさせるため、朝の会や授業でのスピーチやグループで話し合う機会を充実させていく。 ・授業の中で音読する機会を増やしたり、家庭学習で音読カードを活用したりして、声に出して読むことの楽しさを味わわせる。また、授業では、考えたことを話し合う活動を大	・学活、朝の会等でも意見交換を活発にさせていく。 ・漢字に興味関心を持てるように、学習活動を工夫する。家庭学習も活用する。 ・朝読書や図書の時間を活用し、読書に親しませる。

	成する。	切にし、人前で発表することへの抵抗を少なくする。	
第4学年	・物語文で場面ごとに情景や心情を読み取る学習を進めた。その場面にそった情景や心情の読み取りにはまだまだ差が見られる。 ・説明文では段落と段落との関係を考えながら読むことに苦手意識が高い。 ・小グループでの話し合い活動では話型を整えてのやりとりをさせて、全員が話す聞く活動に取り組んでいる。クラス全体で発表できる児童はまだ限られている。 ・漢字を書く力が不足している児童が各クラス2割ぐらいいる。その児童は字形が崩れていることが多い。	・繰り返し同じパターンで授業を流し、学習に取り組み易く工夫する。読解では、叙述から情景や心情をイメージすることを常に意識させる。 ・段落構成を意識することを繰り返し指導していく。 ・話し合い活動では、人前での発表を多く経験させるだけでなく、話型を提示して人前で発表するハードルを下げる。発表に向けて、文章を書くなどして言葉の使い方や文章の構成の仕方を指導する。 ・漢字の学習に年間を通して継続的に繰り返し取り組ませ、漢字を書く力を徹底して身に付けさせる。 ・書写の授業を大切にし、基本点画と筆順のきまりをおさえ、硬毛一体化を推進して日常化できるようにしていく。	・音読活動、朝の会でのスピーチ、話し合い活動、学習後や行事後の作文を年間通して継続的に行う。他教科の学習でも、自分の名前ををいねいに書く意識から啓発し、根気強くノート指導をし、正しい字を示す。日常生活の文章の中で、積極的に漢字を使わせていく。
第5学年	・語彙が十分ではないために自分の気持ちを適切に表す言葉を使うことができない。 ・構成を考えたり、要旨を明確にして書いたりすることが苦手である。 ・漢字を正しく書いたり文章の中で適切に使ったりする力が不足している。	・多くの本を読むことを薦め、語彙を増やすことができるようにする。スピーチ等の機会を増やし、話し方を身につける。 ・文章を書かせる機会を多くして、文章の組み立てや言葉の使い方、事実と感想・意見の区別などを指導する。 ・家庭学習等で漢字練習を繰り返し行い、定着を図る。	・年間を通して、朝の会でのスピーチを行い、自分の気持ちを適切に表せるようにする。 ・読んだ本の題名やページ数をカードに書き込むことで読書意欲を奮起させる。 ・書写指導や漢字指導を通して筆順や字形に気をつけて文字を書くことができるようにする。
第6学年	・物語文の読解、説明文の構成などの理解はほぼできている。しかし、話す・聞くことについては完全に身についているとは言えない。 ・言葉や文章に自分の思いや考えを十分に反映しきれていない児童が多い。	・音読や読解などで長文に触れる機会を増やし、さまざまな言語にふれさせる環境を整える。 ・助詞にまで気を付けた正確な会話ができるよう、適宜指導する。感想文をたくさん書かせたり、繰り返しの漢字練習や言葉の意味調べ、音読を行ったりして、基礎基本の定着を図る。	・年間を通して「スピーチ」を行い自分の思いや考えをはっきり伝えられるようにする。 ・読書活動、日記等、様々な家庭学習活動を取り入れる。